



自愛とは薔薇に近づきすぎたる日
 小林貴子
 白夜光可惜ブロンド背の高き
 宮地良彦
 炎天に銃声末世来たりけり
 満田光生
 緑蔭に人待つ遠き日のごとく
 上村敦子
 傷だらけの空のため群れ向日葵は
 宮坂やよい
 翻車魚の寂し気な顔土用あい
 窪田英治
 瀧音に蝶湧く尾形光琳忌
 宮岡光子
 南十字星宇宙は未来より近し
 伊藤由希子
 日日草働く時は背を伸ばし
 太田 薫
 滝百合と言へば伊予路も土佐のきは
 松本よし乃
 ニタイ・トを揺るがす北の蟬の声
 荒川美恵
 みんなみんな死んじまったよ葛の畏
 吉澤利枝
 烏鳴かぬよ炎天へ嘴開けど
 幹 自聲
 わが死後の供華とするべし不喰芋
 渡嘉敷皓駄
 最期こそみんな昼寝の時がいい
 北見弟花

*

細波は蟬の揺りかご雲は幌
 池間キヨ子
 答へより問ひを持ちたし雲の峰
 高橋節子
 浮世絵に三味線を弾く金魚かな
 竹岡みち子
 苺狩勝ちつづけねばならぬ世よ
 西澤日出樹
 昼寝覚机上のパンチ穴きれい
 市原啓子
 金の蕊内に黄薔薇の頰ほほれぬ
 蔦原説子
 羅や芯の強さが透けて見ゆ
 谷口とし子
 草の穂がどつと喜び電車来る
 森 千恵子
 海霧や火の輪郭をもつ鴉
 岩上諒磨
 空の奥より螢火の殉教者
 青山篤司
 岳の幟赤子の名前記しあり
 田中純子
 緑摘むたび見上げたる薫の空
 赤澤久喜

*

夜濯や明日着る服を選びかね
 宮澤朝子
 薄明のその手にもつは紫蘭かな
 二木 暖
 薔薇よりも薔薇育ててる君が好き
 菊池理津子